八ん子かっぱ村に思う

かけがえのない共通財産をもって

中田町立浅水小学校
教　頭　佐　藤　　崇

８月４日から２泊３日で行われた「八ん子かっぱ村」に参加させて頂きました。同じ中学校に進学する町内７つの小学校の６年生が一堂に会し，共通体験をとおして親睦を深めるというこの行事は，本当にすばらしい活動であると実感しました。

キャンプファイヤーで，子どもたちに話をする機会を得ました。そこでは，私の趣味の天文の話をしました。テーマは，「七夕」です。

七夕といえば，織り姫と彦星が年に１回，天の川で会うというお話です。実際の星空では，どうなんでしょう？織り姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が動いて一緒になるのでしょうか？子どもたちに聞いたところ，約３分の２は，実際に動くと手を挙げました。

１秒間に３０万ｋｍも進む光が１年かかって進む距離を１光年といいます。織り姫と彦星は，約２０光年離れています。２人が２０歳だったとします。彦星が織り姫に電話でデートの約束をします。

（彦）「もしもし，織り姫さん，七夕の夜に会ってくれますか？」→（２０年）→（織）「うれしいわ，ぜひ会いましょう。」→（２０年）→（彦）織り姫の返事が彦星に帰ってくるまで，何と４０年が過ぎてしまいます。そして，互いに光速で出掛け，天の川で出会うのは，更に１０年後。ですから織り姫と彦星は，７０歳のおじいさんとおばあさんになってしまうのです。年に１回，織り姫と彦星が会うというのは，とうてい無理な話なのです。子どもたちの夢を打ち砕くような話ですが，それぐらい宇宙は広いということなのです。私たちが住んでいる銀河系の隣にあるアンドロメダの大星雲は，約３００万光年離れています。つまり，今私たちが見ているアンドロメダの光は，人間の祖先がこの世に登場したころにアンドロメダ星雲を出発したものなのです。こんな話をしましたが，みなさん覚えているでしょうか？

私が天文に興味をもったのは，小学校４年の時です。今考えると祖母の影響が大きいと感じています。「三大将様（オリオンの三つ星）が昇ってきたから寒くなるな。」そんな何げない日常の会話から，星の世界に引き込まれていったのだと思います。すっかり天文にのめり込むようになってからも祖母に助けられました。

１９７６年３月に明るくすばらしい尾をもったウエスト彗星が朝方の空に現れました。祖母に朝早く起こしてもらい田んぼで見たのを懐かしく思い出します。祖母は，私を起こすだけでなく，寒い田んぼに一緒に来て彗星を眺め，「美しいね。」「すごいものだね。」と，感嘆の声をあげるのでした。私の天文の趣味がこれまで続いているのも，この共通の体験，共通の感動が大きな原動力となっています。

八ん子かっぱ村に集った子どもたちも２泊３日の宿泊活動をとおして花山の豊かな自然，友達の優しさなど，かけがえのない財産を共有することができました。ここに集った子どもたちは，共通の財産を生かし，チームワークを高めながら４月から始まる中学校生活を豊かなものにしていくに違いありません。

この充実した活動ができたのも羽生村長さんをはじめ，教育委員会のみなさん，各学校のＰＴＡの方々，そして何と言っても献身的に子どもたちをお世話してくれたジュニア・リーダーのみなさんのお陰です。子どもたちが，地域の方々に支えられているということを実感した３日間でした。本当にありがとうございました。